

算数科教育部会

「楽しく学び、高め合う算数学習をめざして」

○作業的・体験的な算数的活動を重視する。

○数学的表現を通して、子ども同士が関わり合う場（授業）を工夫する。

I. テーマ設定の理由

県教研の数学教育（小学校）分科会の研究テーマは昨年度から継続して「子どもとつくる楽しい授業の想像」である。研究の視点として、特に「数学を活用する」意識や実践力を育てるための「生活・社会とつながる教材」の研究、及び、実践的に実生活に結びついた算数・数学の重要性。子ども達が主体となり、数学的表現を通してかかわり合う授業づくりが挙げられている。

よって、本部会でも教具の工夫や思考の場を設定することで、学びを高めたいと考えた。

II. 研究の内容

1. 経過

第1回	5月8日	部長選出，山梨支会・甲州支会代表決定
第2回	5月21日	春季教研報告，今年度の計画について
第3回	6月4日	昨年度の授業について，授業案検討①
第4回	8月4日	学習会，授業案検討②
第5回	8月29日	統一授業研（加納岩小）
第6回	10月1日	秋季教育研究へ向けて，授業研振り返り
第7回	11月26日	県教研の報告，実践発表①
第8回	1月14日	実践発表②
第9回	2月4日	統一授業研（塩山北中）
第10回	2月18日	1年のまとめ

2. 授業実践研究

第4学年「小数のしくみを調べよう」

授業者 山宮彩子教諭（加納岩小学校）

～授業実践について～

- ・ 授業実践では、テーマに基づいて作業的・体験的な活動を重視しながら実践をすることができた。
- ・ “何を学ぶのか” “何を学んだのか” という「めあて」と「ふりかえり」を大切にし、「わかる」授業をつくっていくよう検討の段階から取り組むことができた。

3. 実践発表

第1学年「ひきざん（繰り下がり）」

第5学年「合同な図形」「面積の求め方を考えよう」「直方体や立方体の体積」

Ⅲ. 成果と課題

1. 成果

- ・ 8月29日の加納岩小4年生の「小数」の授業をとおして、「はした」の大きさのあらわし方について、意見交換・教材研究ができた。
- ・ 実践した授業をもとに、互いに学習できたことで授業力向上に役立った。
- ・ 研究授業では、実物やICTを活用したため、子どもの興味関心が増したと感じています。
- ・ 一人一実践の発表で先生方がどのように算数的活動を工夫し、子ども同士が関わり合う場を作りながら進めているのが参考になりとても良かった。
- ・ 部員が、個々の実践を発表することで、テーマに関わり、あるいは校内研究に関わって実践したことを紹介しあえる機会となつ
- ・ 夏の学習会で校長先生がご指導していただいたデジタル教科書の有効性や学習指導要領の説明は大変参考になりました。
- ・ テーマのもと、それぞれが毎日の授業の中で意識し、授業ができた。
- ・ それぞれの実践を持ち寄り、報告し合うことで情報交換ができとても学べた。
- ・ 小中で1本ずつの研究授業を見合うことで小学校段階で教えるものがどのように中学校につながっているのか等、実際に見取り意見交換をする中で学ぶことができて良かった。

○小中で1本ずつの研究授業を見合うことで、小学校段階で学ぶことがどのように中学校へつながっているのか等、実際に見取り、意見交換をする中で学ぶことができて良かった。

○それぞれの実践を持ち寄り、報告し合うことで、先生方がどのように算数的活動を工夫し、子ども同士が関わり合う場を作りながら進めていくのかを知ることができとても参考になった。

2. 課題

- ・ 研究の検証方法について、学ぶ機会があるとよいと思う。
- ・ 外部から講師をお招きして、教材の工夫や学力調査の苦手とされる内容への指導について等お話をうかがっても良い。
- ・ 子ども同士が関わり合う場ということに、まだまだ課題があると思うので、来年度も引き続き研究してもよいと思う。

●来年度の実践のあり方として、一人一実践は継続して行うが、内容は焦点化して全員で課題を持ち寄るとよい。

●研究への全員参加を目標に、研究の検証方法なども考えていきたい。

●授業研究の準備等を授業者だけに任せるのではなく、授業者に負担にならないように行っていきたい。

●参考にした文献・理論等について、指導案に記載する必要がある。

(部長 大島めぐみ)